

- ①… 正智深谷、惜敗～高校選手権～・大宮アルディージャ優勝～4種選手権大会～・第4回理事会開催
- ②… 高校選手権レビュー～正智深谷 vs 京都橘をベスト4の監督が振り返る～
- ③… 「レフェリング・ハイ！」～佐野 勲さん（県立草加高校教諭 2級審判）に聞く～
- ④… 第6回埼玉県第4種サッカーリーグ選手権大会～最終日を振り返る～
- ⑤… 第6回埼玉県第4種サッカーリーグ選手権大会～最終日を振り返る～
- ⑥… 大会記録●県内大会 女子・シニア 大会記録●県外大会 社会人
- ⑦… 大会記録●県外大会 2種・3種・女子・シニア・フットサル 大会記録●選抜 4種・女子
- ⑧… インフォメーション・編集後記

●発行/発行人:会長・相川宗一 編集人:荒川裕治 ●発行所/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 雁ヶ音ビル204号室 Tel048-834-2002-Fax048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

正智深谷、1回戦で惜敗 ～高校選手権大会～

12月30日から関東各地で「第91回全国高等学校サッカー選手権大会」が開催された。埼玉県代表となった正智深谷高校は1回戦、31日に埼玉スタジアムで京都橘を迎え撃った。

立ち上がり4分に失点するも、21分に追いついたが、後半の立ち上がり43分にも失点し、勝ち越しを許した。さらに、53分に追いついたものの追加点を奪うことができなかった。そしてPK戦に突入し、結果3-4となり、初戦敗退となった。

初出場というプレッシャーの中、二度追いついたのは選手たちに力があつたからだろう。それだけに前半後半とも、立ち上がりの失点が悔やまれる。また、県決勝戦ではPK戦に勝利して県代表になっただけに、残念な試合となった。（2ページに関連記事）

第91回全国高等学校サッカー選手権大会

12月31日～1月19日 国立競技場他

1回戦 正智深谷 2-2 京都橘
(3PK4)

得点者:小島圭貴、齋藤雄士(正智深谷のみ)

※ 優勝は鵬翔高校(宮崎県)



正智深谷高校

大宮アルディージャジュニアが 3年振り3度目の優勝! ～4種選手権大会～

12月23日に開催された「第6回埼玉県第4種サッカーリーグ選手権大会」の決勝戦は、レジスタFCと大宮アルディージャジュニアの対戦となった。

立ち上がりから主導権を握った大宮が前半9分に先制し、後半に入っても4分で追加点を奪い、2対0で勝利した。

今年、埼玉の4種は新座片山が全日本少年サッカー大会で全国を制し、JA 全農チビリンピックで優勝したレジスタFCがダノンカップでも優勝し、世界大会で2位。県少年団大会では江南南サッカー少年団、そしてこの4種選手権では大宮アルディージャジュニアが優勝と、どのチームにも力があり4種全体としてレベルの高さを証明してくれた。選手たちの3種での活躍を期待したい。

決勝 大宮アルディージャジュニア 2-0 レジスタFC
得点者:堀江貴大2



決勝 大宮アルディージャジュニア vs レジスタFC

平成24年度 第4回理事会開催

1月30日、さいたま共済会館において第4回理事会が開催された。大きな議案としては、平成25年度予算の審議があり、承認された(公式ウェブサイト参照)。

- 第1号議案 平成25年度事業計画書(案)について
- 第2号議案 平成25年度収支予算書(案)・資金調達及び設備投資見込みについて
- 第3号議案 平成25年度に伴う公益財団法人変更認定申請について
- 第4号議案 平成25年度第2回臨時評議員会の開催について
- 第5号議案 公益財団法人埼玉県サッカー協会規程等改正(案)について
- 第6号議案 功労賞選考について
- 第7号議案 SFAトレーニング場構想について
- 報告事項 会長及び専務理事の職務執行状況について

高校選手権レビュー

～正智深谷 vs 京都橘を県ベスト4の監督が振り返る～

正智深谷と対戦した京都橘が結果的に準優勝した。この一戦だけでは多くを語れないだろうが、この一戦から何かを感じられたならば、それを共有できればいいのではないだろうか。埼玉のレベルアップのために――。

「オープンマインドで話せる場作りを」

野崎正治監督（浦和東高校）

「惜しいゲームでした。あれ一つ乗り越えていれば、勝ち上がっていったと思います。試合に関しては、やはり前半、後半の立ち上がりでしょう。十二分にケアしていたと思いますが、DFの裏のスペースを取られて失点してしまいました。県決勝では素晴らしい集中力を見せてくれていたので残念でした。

それでも二度追いつきましたが、ここ数年、埼玉勢が勝ち上がったときは武南に松永くん（七海・パイオニア川越）がいて、西武台には清水くん（慎太郎・大宮アルディージャ）がいて勝っていました。こういう素材はなかなか出て来ないのが現状です。正智にもそういう選手がいれば、勝ち上がっていたと思います。県として、ストライカーの育成、養成というのが課題ですね。

あと試合とは直接関係ありませんが、昨年、選手権に出場する際に大山先生（武南）に話を伺いました。私としては清水の舞台から飛び降りるつもりで大山さんに飛び込んでいきました。そこで、快くいろいろなことを教えていただき、自分の中での選択肢が広がりました。一番印象に残ったのは、子どもたちと一緒に過ごす時間を増やさないと言われたことです。コミュニケーションが大事だということです。そこで思うのですが、県代表が決まった後にでも、指導者がオープンマインドになって話し合える場、聞ける場があるといいなと。自分の選択肢が10あるとすれば、それが10.5になり、11になるかもしれません。そういう交流が国立に近づくのではないかと思います。検討していただきたいですね」

「やり切る」

高橋秀弥監督（本庄第一高校）

「京都橘の米澤くん（一成氏）は大学の後輩なので交流があり、この夏休みも練習試合をしました。後半に追いつかれて1対1で終わったのですが、県内でいえば埼玉栄のようなチームでした。ドリブルとパスで繋いでくるんです。

それで試合ですが、どちらかというと個人技に固執してしまう正智深谷と、あの2トップ（7仙頭、10小屋松）をどう使うかを考えてプレーする京都橘、という対戦でした。

正智深谷のほうがサイドの力はあったと思いますし、速さでも上回っていました。ですから個々で勝負強さを出すのではなく、もう少し組織が表に出てくると違ったのではないのでしょうか。また、やはりこういう大会では点を取られないことが大きいと改めて思いました。正智としては2失点してしまいましたが、どちらかはいらなかったですね。

京都橘は出来が良かったです。1回戦の後から毎試合、米澤くんと電話で話をしたのですが、そこでの話としてはチームが1、2年生中心だったので『負けて当然』という気持ちで戦っていたということです。失うモノがないんですね。そういうことを選手たちが気づいてプレーしていたということです。緊張したのはPK戦のときだけだったと。ですから、3年生が中心だったら、『らしさ』を出せずに終わっていたのかもしれませんが。

そこで『らしさ』をどう出すのか。これが埼玉全体の課題ではないでしょうか。どのチームも見ているとインターハイまでは『自分たちの』サッカーをしているのですが、選手権に向けては『勝つ』サッカーになってしまうのです。特に準決勝、決勝は『勝つ』サッカーになっていますよね。決勝の正智も、正智らしくありませんでした。そこで思うのです。『自分たち』のサッカーをやり切るということが大切ではないかと。徹底的にやり切る。それでは勝

てない試合もあるかもしれませんが、『らしさ』を出さずに終わるというのは残念なことです。私はこだわりたいと思っています」

「心を研ぎ澄まして。そして積み重ねを」

秋山満監督（浦和南高校）

「とにかく立ち上がりでしたね。初めての相手だったでしょうから、2トップが速いというのも、どのくらい速いかは実感してみないとわからないものです。小島くん（時和氏。正智深谷高校監督）も『何があるかわからないのですから、慎重に戦わなければいけない』と言っていました。それはラインを引く、というのではなく、心を研ぎ澄まして、大切にプレーしなければならないということです。実際、あの2トップは、想像以上に速かったと思います。

あの試合、ということではないのですが、我々が忘れてはいけないと思うのは、やはり積み重ねていくことが大事だということです。今日やったことを記録して記憶し、反復していくしかないので。記録することで、もう一度成功したこと、失敗したことを頭に叩き込むのです。それが次の試合に繋がりますし、またイメージを持って練習に入っていくのです。そのためには、いろいろな練習方法や戦い方がありますが、自分たちがやっていることを信じて練習し、試合に臨むことだと思います。そうすることでいつも以上の力が出るのではないのでしょうか。当然、選手たちには意識して自分から取り組むように投げかけ、それを信じてあげることが大切だと思っています。ですから、ときどきこちらから与えるトレーニングではなく、選手たちの自発的なトレーニングをすることがあります。ときには身にならないようなトレーニングもありますが（苦笑）、『自分たちで考えること』を身につけることはムダじゃないですね」



「レフェリング・ハイ！」

～佐野 勲さん(県立草加高校教諭。2級審判)に聞く～

昨年の県高校選手権予選(11月3日、埼玉栄 vs 正智深谷@NACK5スタジアム大宮)で、試合途中で主審の交代というアクシデントが起こった。そこにいる誰もが驚いたのだが、試合は第4の審判として入っていた佐野さんに引き継がれて、無事終了した。あのとき、どのようなことが起こり、どう判断したのか。ここでの出来事を振り返ることにより、審判だけでなく、サッカーへの理解をより深めていただければ幸いである。

「落ち着いていこう」

——まずは、あの日の太幡さん(紀明氏。主審)の様子をどのように思われていましたか。

佐野 今思えばですが、試合前のグラウンドチェックの際、太幡くんが「徐々にテレビ放送されるゲームを担当するんですよ」と話をしていた、私は「大丈夫。いつものようにやれば」と言いながら審判控え室に戻ったんです。

その後、マッチミーティングに参加し「あとは各自で身体を作りましょう」ということになり——私は4thのときは、この時間を自分のトレーニングに当てているんです。スタジアムの周りを走ったり、ダッシュしたりと30分程度、適当な汗をかいて控え室に戻りました。

すると、太幡くんが打ち合わせのときに「笛を持っていてください」「何かあったらよろしくお願いします」と言うんです。2回くらい言われたのを覚えてます。そして、ピッチに向かい、選手チェックを二手に分かれて行い、コイントスをして握手をして、ゲームが始まりました。

——そして試合途中、スタンドからは、太幡さんがクルクルと回転しながらタッチラインから外に出ていくように見えました。

佐野 27分です。正智のゴールキックがダイレクトでセンターライン近くのタッチラインを割りました。そこに太幡くんが寄ってきたんです。そのときは、自分がミスジャッジしたのかなと思ったんです。というのは、ボールが出た際、どちらのスローインかというのを私から合図で送っていたので、これまでのどれかが間違っていたのかなと。そうしたら、太幡くんが「ダメです。フラフラです」と言いながら寄ってかかってきたんです。すぐに抱きかかえて、とにかく座らせないといけないと思い、お尻を先にしてタッチラインの外に座らせたんです。

栄のベンチからトレーナーの方が来てくれて症状を見てもらったところ「ダメです。すぐに救急車を」ということになり、お願いしました(太幡氏は突発性難聴だった)。その際「次は誰がやるのか」という話になりましたので、試合の前に頼まれていましたから、そこで自分の中のスイッチが入りましたね。岡田委員長や前之園くん(晴廣氏)から「落ち着いていこう」と声をかけてもらいました。



自分でも落ち着いていることがわかり、まずは両チームのキャプテンを呼びました。「こういうことがあったけれど、高校最後の大会でみんなが動揺して、いつものパフォーマンスが出せないようでは申し訳ない。チームのみんなに一声かけてほしい」と言ったんです。そして、栄のスローインからスタートしました。

「太幡くんだったら」

——試合途中で入っていくというのは、実際のところなかなかないと思われます。今回の場合、瞬時に心がけたことは何だったのでしょうか。

佐野 太幡くんが27分主審をしていた判定をベースにしようということです。ですから、入って早々のプレーでイエローカードを出したのは「太幡くんだったら」という思いからです。基準を示してくれていたもので、私も迷わずに判断できました。

その後、だんだん自分の色を出したと思います。当然、取り切れなかったファウルはあったと思います。あと、選手たちに走り負けないうこと。負けてたまるかと(笑)。



——もしかしたら、ご自身にとってのベストゲームだったのでしょうか。

佐野 テレビ中継が入っている中では(笑)。支部での試合とかでは、何度かあるのですが。

それにしても、余裕がありました。本当にいろいろなものが視野に入ってきましたから。特に後半20分過ぎからは本当に楽しかったですね。栄が「もう1点取りに行くぞ」という時間帯でもあり、サッカーそのものも楽しめました。本当、ボールが入るところ、繋ぐところなど、先を読んでレフェリングできました。時計を見ながら「残り時間がこれしかないのか。もったいないな。もう少しこの試合を続けていたい」などと思っていました。

「全員で作ったゲーム」

——どこかランニング・ハイに似ていますね。これこそ、レフェリング・ハイじゃないですか。

佐野 確かにそうですね。個人的にも達成感のある試合でしたが、試合後、栄のエスクデロ総監督から「ありがとう」と言ってもらいましたし、栄の子どもたちも負けてしまったけれど、どこか納得した表情で握手をしてくれました。

選手も貴重な体験をしたと思います。レフェリーがいないとゲームができないということがわかったのではないのでしょうか。

そして試合後、この試合に関わった役員の皆さんに出迎えてもらいました。あの試合は、レフェリー4人だけでなく、運営の役員の皆さん全員が「チーム」になっていたと思います。皆さんに後押しされてできた、スタジアムにいた全員で作ったゲームだったと思います。だからでしょうか、今までに無かった、いい余韻があったのです。

審判冥利につくる、というか審判をやっていてよかったなと思った試合でした。

——選手の一生懸命さと審判の一生懸命さとが、いいゲームにしたのではないのでしょうか。

最後に、仲間の皆さんに何か伝えたい言葉がありましたら、お願いします。

佐野 過去を振り返ると急に「やれ」ということがよくありましたね(笑)。ある年の決勝戦は前日の夜9時に連絡が入ったこともありましたが、そういうことがあるからなのか、常に気持ちの中では「いつでもいけるぞ」とスクランブル発進にも対応できるよう、日々のトレーニングをしていますし、あとはオシムさんの言葉ですが、ウサギは肉離れしない、という言葉に胸にしまっています。

でも思うのですが、いつでも「自分はレフェリーである」ことを意識していれば、いつでもゲームに入っていけるのではないのでしょうか。2月で47歳になりますが、これからもいい準備をしていきたいと思っています。

——ありがとうございました。これからもご活躍ください。

第6回埼玉県第4種サッカーリーグ選手権大会 ～最終日を振り返る～

例年12月23日は、埼玉スタジアムで一日サッカーを楽しめるようになっています。今回は、準決勝、決勝という試合だけでなく、スタジアムのあちこちでいろいろなことが行われていたことを紹介したいと思います。

今回も来ていただいた皆さんは思い出してみてください。また行けなかったという皆さんは、次回はぜひ、足を運んでください！

主催 (公財)埼玉県サッカー協会
主管 (公財)埼玉県サッカー協会第4種委員会
後援 埼玉県教育委員会／NHK さいたま放送局
テレ玉／FM NACK5／埼玉新聞社
協賛 埼玉縣信用金庫／ブーマ／
三国コカ・コーラボトリング／アストロ
特別協力 浦和レッドダイヤモンズ／大宮アルディージャ



▲コスモSC川越 2－3 大宮アルディージャジュニア
コスモの健闘が光る試合でしたが、アルディージャジュニアの上手さが上回りました。

レジスタFC 5－0 新座片山▶
ダノンカップ、チビリンピック優勝チームと全日本少年大会優勝チームという日本の頂点を決める対戦が実現。レジスタの怒濤の攻撃が勝ちました。



▲決勝戦は、日本代表も絶賛するメインピッチで開催されます。一年間のがんばりを称えての舞台です。憧れが目標となり、がんばることができるのです。

浦和尾間木	2	0	FC GLAUX	2	0
FC LIEN	1	3	FC CIVETTA 花園	4	1
コスモSC川越	2	3	深谷桜ヶ丘	1	1
西武ウィングスSC	0	4	狭山台イレブンスC	1	0
ARAD' ORO	3	0	FC CIVETTA	0	6
越谷PCキッカーズ	0	4	レジスタFC	7	0
勝瀬ふじみ野SC	1	0	上福岡少年少女SC	0	0
富士見FC	0	4	烏天狗Jr.FC	0	1
Zeus FC	0	0	上尾尾山台ファイターズ	0	1
東松山ペレニアFCJ	0	0	所沢SCJ	0	0
上尾朝日FC	3	3	江南南	6	2
川越ひまわりSC	0	0	FC鶴ヶ島	2	0
FC宗岡	7	2	1FC川越水上公園	6	1
西宮SC	2	0	東川口FCJ	6	1
上尾大石	0	0	横瀬	0	0
浦和三室	2	7	アズマFC	1	0
新明	0	2	行田泉	0	4
大宮アルディージャ	2	3	戸田二	2	1
秩父影森	0	1	埼玉UFC FESTA	2	0
宮代東FC	5	3	レアル狭山Jr	0	1
上尾東	1	2	安行東	0	2
あけぼのFC	1	3	戸塚FCJ	2	3
草加JFCプライマリー	2	0	吉川ホワイトシャーク	0	0
ジョイフルFC	0	3	武蔵野FC	0	1
越谷サンシン	1	7	新座片山FC	7	0



▲各ブロックの優勝チームは、決勝戦の前に表彰を受けるのですが、その前に第4グラウンドでミニサッカーを楽しんでもらっています。やはりボールを蹴らないとうまくなりません。



▲フットサル場は決勝戦を生中継するNHKさいたま放送局のイベントエリアとなりました。人気キャラクター「どーもくん」を相手にPK合戦。行列が途切れることなく、大人気でした。



▲ボールルームでは、県内各地で開催された4種リーグの写真展が開催されました。4種選手権に出られなかった子どもたちも写真を見て「あっ、僕だ」と歓声を挙げていました。

キッズエリートマッチ U-10



▲準決勝と決勝の間に、第2グラウンドと第3グラウンドを使って、キッズエリートマッチU-10を開催しました。この年代から天然芝でサッカーを楽しんでもらい、もっと好きになってほしいと願っています。

東北3県被災地招待試合



▲今回で2回目となりましたが、東日本大震災の被害に合った福島、宮城、岩手からチームを招き、県内のチームと交流試合をしてもらいました。それも、メインピッチでの開催です。いつも以上の力を出せたのでは？

今回、U-12宮城県代表の一員として埼玉に来てくれた島尾桐太くんの作文です。皆さん、ぜひ読んでみてください。そして、あの日のことを忘れないでください。→

ティーパーティー



▲招待試合に参加した6チームの交流の場として「ティーパーティー」を設けています。大人もそうですが、子どもたちが交流することで埼玉の子どもたちにも東日本大震災を忘れないでほしいものです。

▶ベンツの交換など、子どもたちがいろいろな形で友情を深めてくれました。もしかしら、近い将来、一緒に埼玉スタジアムに立ってくれるかもしれません。



▲横山副会長よりスポンサーの皆様を紹介させていただきました。県内におけるサッカーへの理解は年々、増えています。

表彰式



▲優勝カップ、優勝シャレの他、各スポンサーの皆さんからも多くの記念品をいただきます。最後は全員で歓喜の万歳です。

平和・震災復興作文コンクール(主催 大崎市)

【平和作品】小学生の部 最優秀賞

「東日本大震災が教えてくれたこと」

古川第二5年 島尾 桐太

三月十一日、東日本大震災が、ぼく達の住む宮城県をおそいました。えん岸部では、津波により、大きな被害が出ました。

ぼくのおばあちゃん、いとこの家は、特に被害の大きかった気仙沼市にあります。地震があった日の夜中、仕事から帰ってきた父から気仙沼の話聞きぞっとしました。巨大津波におそわれた後、大きな火事が発生し、町はまるで火の海だと言っていました。心配になり、次の日から電話をかけましたがつながりませんでした。ぼくは(大丈夫。みんなはきっと生きている。)と、自分に言い聞かせ続けました。六日後、ようやく電話がつながり、全員無事だということが分かりました。そのしゅん間、ほっとしたというか、言葉にならないものを感じました。

ここ、大崎市も大きな被害を受けました。一週間以上も電気が止まってしまうました。

ぼくは、この震災に教えられたことがあります。ぼく達は、電気や石油にたよりきって生活していたということです。地震発生当時は三月で、寒い日が続いていました。だんぼうが使えず、ぼく達は、家の中でもあつ着をして寒さをしのいでいました。ガソリンも手に入りにくかったので、買い物に行く時などどこに行くにも歩いて行動しました。

また、たくさんの人にお世話になりました。特に心に残っているのは、友達の家からストーブをかしてもらったことです。ガソリン不足が深くな中、雪のふる暗い夜道を、中新田から車でとどけに来てくれました。

それから、電気の復旧支援に来ていた、中部電力さんからパンをもらった事もありました。食料の買い出しのため、店の前にならんでいた時、ぐずり出した妹のすがたを見て、(がんばれよ。)と、たくさんのパンをくれました。そのパンは、おじさんたちの昼食だったそうです。おしますパンをくれたおじさんたちの優しさを感じました。

その他にも、友達の家でお風呂に入れてもらったり、ご近所さんからラジオやかい中電灯をかしてもらったり、たくさんの人に助けられました。

人の優しさにふれ、ぼくはこう思いました。「人は一人では生きていけない。助けてくれたり、はげましてくれる人がいるから生きていける。人間とは、支えあい、助けあって生きていく生き物だ。」

これが、今回の震災で感じた二つ目のことです。

今、日本は大変な被害にあったにも関わらず、復興に向けて努力しています。ぼくは、この日本を復興するまで見守り続けようと思っています。

日本は強い国です。

「日本は必ず復興する。」

ぼくはそう信じています。

(本文まま)



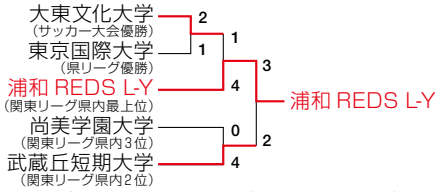
▲おめでとう、大宮アルディージャジュニアの皆さん。これに満足することなく、これからもサッカーを続けて、日本を代表する選手になってください。

大会記録●県内大会

女子

第5回埼玉県サッカー協会会長杯

12月9～23日 駒場スタジアム他



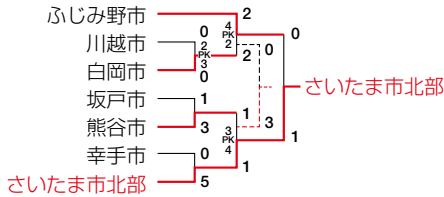
※ 優勝は浦和レッズレディースユース（2年連続3度目）



浦和レッズレディースユース 写真提供：浦和レッズ

第25回県民総合体育大会【サッカー競技】一般女子

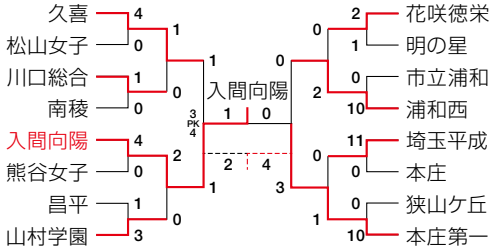
1月27日～2月3日



※ 優勝はさいたま市北部地区

平成24年度高体連女子新人戦

1月12日～2月10日 東松山市陸上競技場他



※ 優勝は入間向陽高校

第9回埼玉県女子フットサルリーグ

●最終結果

上位リーグ最終結果	勝点	勝	分	負	得失差	順位	最終順位
Fukaya	5	1	2	0	+1	2位	1
レスト戸田	7	2	1	0	+2	1位	2
リーベル	4	1	1	1	+6	4位	3
chechio	0	0	0	3	-9	3位	4

下位リーグ最終結果	勝点	勝	分	負	得失差	順位	最終順位
I.F.C./ems	4	1	1	0	+2	5位	5
GRANDE	4	1	1	0	+2	6位	6
PANDA	0	0	0	2	-4	7位	7

シニア

2012年度シニア40南部リーグ

●最終順位

順位	チーム名	勝点	得失差
1	越谷シニアサッカークラブ	45	+36
2	所沢バッカーズ	42	+38
3	パルスフットボールクラブ	37	+19
4	コイコック	36	+13
5	新明サッカークラブ	35	+24
6	FC浦和シニア	31	+13
7	川口シニアフットボールクラブ	28	+13
8	八潮シニア	25	±0
9	川越シニア	22	+5
10	NTTシニア	20	-11
11	蕨シニアサッカークラブ	15	-19
12	与野シニアフットボールクラブ	14	-7
13	東春'72シニア	14	-12
14	鴻巣UNITED	10	-32
15	セルフィッシュ	7	-17
16	大宮シニアフットボールクラブ	6	-37
17	戸田シニアサッカークラブ	5	-26

2012年度シニア40北部リーグ

●最終順位

順位	チーム名	勝点	得失差
1	VAMOS鳩山	38	+48
2	クマガヤSC	38	+29
3	東松山オールドパワーズ	33	+32
4	本庄アイベックス	31	+20
5	秩父四十雀サッカークラブ	31	+18
6	熊谷ブーメラン	26	+5
7	小鹿野バンビノナイテッド	24	+2
8	深谷SFCフェニックス	23	+6
9	小川スポーツスター・ユナイテッド	22	-7
10	児玉四十雀サッカークラブ	20	+2
11	行田グレイティッド	20	0
12	ジョイファーストめめめ	12	-30
13	セントラル蹴団	10	-17
14	東松山ベレーニア	10	-21
15	吉見エスカーラFC	6	-29
16	寄居四十雀サッカークラブ	0	-58

2012年度埼玉県シニア50サッカーリーグ

●1部 最終順位

順位	チーム名	勝点	得失差
1	パルスFC	30	+16
2	所沢バッカーズ	29	+19
3	与野シニアFC	22	+5
4	NTTシニアFC	21	+6
5	東松山ベレーニア	13	-8
6	東松山オールドパワーズ	18	-5
7	市高クラブ	16	-5
8	深谷SFCフェニックス	14	-4
9	本庄アイベックス	10	-9
10	東春'72シニア	9	-15

●2部 最終順位

順位	チーム名	勝点	得失差
1	川越シニアFC	25	+24
2	蕨シニアSC	19	+8
3	越谷シニアSC	19	+7
4	熊谷セントラル蹴団	18	+7
5	FC浦和シニア	14	+7
6	大宮シニアFC	13	-6
7	鴻巣ユナイテッド	12	-3
8	川口シニアSC	12	-6
9	熊谷ブーメラン	11	-8
10	小川スポーツスター・ユナイテッド	7	-12
11	戸田シニアSC	7	-18

2012年 60リーグ戦績表

順位	チーム名	勝点	得失差
1	パルス・US	23	+13
2	ポラリス	20	+8
3	サウスフレンズ	12	-1
4	浦和チーム	11	±0
5	FSC	9	-8
6	KMO	6	-12

2012年 65リーグ戦績表

順位	チーム名	勝点	得失差
1	サクラ65	24	+30
2	ケヤキ65	6	-30

2012年 60リーグ戦績表

順位	チーム名	勝点	得失差
1	パルスR	28	+26
2	FFCR	21	+5
3	ゼルコBAR	1	-31

大会記録●県外大会

1種・社会人

第92回天皇杯全日本サッカー選手権大会（4回戦以降）

9月1日～1月1日 国立競技場他

4回戦 浦和レッズ 0-2 横浜F・マリノス
大宮アルディージャ 4-3 川崎フロンターレ
準々決勝 大宮アルディージャ 2-3 柏レイソル
※ 優勝は柏レイソル

東京都・埼玉県社会人サッカー交流戦

1月13日 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

埼玉県 2-1 東京都

2 種

プリンスリーグ関東・2部リーグ参入決定戦

12月15日 矢板中央高校サッカーグラウンド他

栃木SCユース 1-2 武南高校
(延長)

※武南高校、幕張総合高校、水戸ホーリーホックユース、國學院大学久我山高校が来年度のプリンスリーグ関東2部に参入する



プリンスリーグ関東2部参入決定戦 武南高校

2012 Jユースカップ

11月17日~12月24日 長居スタジアム他

1回戦 浦和レッズ 2-0 横河武蔵野
柏レイソル 3-0 大宮アルディージャ
2回戦 サンフレッチェ広島 4-2 浦和レッズ

※優勝はコンサドーレ札幌U-18

3 種

第24回全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会

12月23日~27日 J-GREEN堺他

1回戦 グランセナ新潟 0-5 大宮アルディージャ
愛媛FC 0-2 クマガヤサッカースポーツクラブ
2回戦 川崎フロンターレ 0-0 大宮アルディージャ
(3PK4)
アルビレックス新潟 3-0 クマガヤサッカースポーツクラブ
準々決勝 千里丘FC 0-2 大宮アルディージャ
準決勝 大宮アルディージャ 4-2 アルビレックス新潟
(延長)
決勝 大宮アルディージャ 2-4 ガンバ大阪
※大宮アルディージャは準優勝

平成24年度 関東ユース(U-15)リーグ参入戦

12月8、9日 熊谷スポーツ文化公園東多目的グラウンド他

1回戦 大宮FC 2-0 ザスバ草津
※関東リーグ2部にはワセダクラブ Forza02 とザスバ草津が昇格する

女子

第34回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会

11月23日~12月24日 NACK5スタジアム大宮他

2回戦 JAPANサッカーカレッジレディース 0-1 ASエルフェン狭山
3回戦 ASエルフェン狭山 2-1 スペランツァ大阪高槻
ベガルタ仙台レディース 0-2 浦和レッズレディース
準々決勝 INAC神戸レオネッサ 4-0 ASエルフェン狭山
JAFアカデミー福島 0-3 浦和レッズレディース
準決勝 INAC神戸レオネッサ 1-0 浦和レッズレディース
※INAC神戸レオネッサが優勝

第19回関東女子サッカーリーグ・入れ替えトーナメント大会

1月19日~27日 鹿島ハイツ他

1回戦 東京国際大学 5-1 宇都宮文星女子高校
2回戦 つくばFC 1-4 東京国際大学
3回戦 東京国際大学 1-2 太田レディース
入れ替え戦 尚美学園大学 4-1 東京国際大学
※尚美学園大学が残留。太田レディースが昇格。

第24回全国レディースサッカー大会(O-40)

11月23日~25日

Aグループ リトルスターズ(宮城) 0-1 北坂戸レディス
JUVEN.FC.FLOR(岐阜) 1-4 北坂戸レディス

●1位トーナメント

1回戦 北坂戸レディス 1-2 LFC TOYOTA
※優勝はFCビクトリー青梅

女子・大学

第21回全日本大学女子サッカー選手権大会

12月26日~1月6日 国立競技場他

2回戦 静岡産業大学 5-2 尚美学園大学
武蔵丘短期大学 3-0 新潟医療福祉大学
準々決勝 武蔵丘短期大学 2-0 大阪体育大学
準決勝 早稲田大学 4-0 武蔵丘短期大学
※優勝は日本体育大学

女子・高校

第21回全日本高等学校女子サッカー選手権大会

1月12~17日 磐田スポーツ交流の里ゆめりあサッカーグラウンド他

1回戦 久喜高校 1-5 京都精華女子高校
※優勝は常磐木学園高校

シニア

第6回関東シニアサッカー選手権大会(O-40)

12月15、16日 熊谷スポーツ文化公園補助競技場他

予選リーグA組 所沢バッカース 1-0 ラツオス古河
所沢バッカース 3-0 大泉クワレスタ
所沢バッカース 4-0 千葉四十雀
決勝 所沢バッカース 0-2 山梨マスターズ

※所沢バッカースは準優勝

フットサル

PUMA CUP 2013 第10回全日本フットサル選手権大会関東大会

1月13~19日 東金アリーナ

1回戦 三栄不動産FC宇都宮 4-5 Artista埼玉
2回戦 Artista埼玉 4-4 CAFURINGA東久留米
(2PK4)

※優勝はフウガすみだ

バーモントカップ第22回全日本少年フットサル大会

1月4日~6日 駒沢体育館

グループE ヴェルディSS岩手・花巻 0-8 江南南サッカー少年団
江南南サッカー少年団 7-0 FCボア益田
江南南サッカー少年団 4-2 太陽スポーツクラブ国分

●決勝ラウンド

ラウンド16 SSS札幌サッカースクール 5-3 江南南サッカー少年団
※優勝は鹿島アントラーズジュニア

大会記録●選抜

4 種

第23回関東選抜少年サッカー大会

12月1、2日 ひたちなか市総合運動公園スポーツ広場他

●予選リーグB組 埼玉県SP 1-0 山梨県P
埼玉県SP 6-1 秋田県
埼玉県SP 3-0 長野県

●予選リーグE組 埼玉県DX 2-0 山梨県G
埼玉県DX 1-0 新潟県
埼玉県DX 2-0 岩手県

●決勝リーグ

埼玉県SP 3-0 厚木選抜
埼玉県SP 0-2 栃木県
埼玉県DX 0-3 茨城県
埼玉県DX 0-1 東京都13ブロック

※優勝は茨城県

女子

第19回少女サッカー都県選抜チーム関東・東北交流大会

1月27日 吉見町ふれあい広場陸上競技場

Aブロック 福島県 0-3 埼玉県
神奈川県 0-1 埼玉県

決勝 埼玉県 1-0 東京都
※埼玉県は2年ぶり8回目の優勝

第20回神奈川県少女選抜招待サッカー大会

2月2日、3日 湘南星槎スタジアム

Aブロック 埼玉県 3-0 山梨県
大阪府 2-2 埼玉県

※埼玉県は得失点差でブロック2位に

2位パート 埼玉県 5-2 滋賀県
5位決定戦 埼玉県 0-0 兵庫県
(4PK3)

※埼玉県は5位。優勝は大阪府

インフォメーション

●日本代表選出

FIFA フットサルワールドカップ・タイ 2012 (11月1日～18日)

FP 小曾戸 允哉 (バサジ大分)

※日本代表はベスト16

第3回世界女子フットサルトーナメント2012 @ポルトガル

(12月3日～9日)

GK 松山 愛 (Estrela NOVO Kawaguchi)

FP 足利 千春 (Estrela NOVO Kawaguchi)

※日本代表は6位

●第2回関東女子審判研修会報告 ～指導部 鈴木ゆみ～

10月6日・7日に行われた第34回関東女子サッカー選手権大会の1・2回戦を関東女子審判員の第2回関東女子研修会として実施いたしました。

各都県から12名の審判員が参加し、大会前日の5日に熊谷スポーツ文化公園補助競技場にてフィットネステスト、東松山リコー研修センターへ移動し、競技規則テスト・全体研修会を行い、翌日に向けて万全の準備をしました。関東審判委員会・指導部の中込均氏からの「異議を言わないようにするためには」の課題について、3グループに分かれてディスカッションをし、発表を行いました。

今回の研修会では【アドバンテージとクイックリスタート】をテーマに掲げ、2日間で12試合の実技研修を行いました。担当した審判員はインストラクターの方と共に、映像を見ながら事象や対応の確認をし、ご指導をいただきました。

参加した審判員は、各自課題や目標をしっかりと持ち、試合に臨んでおりました。80分の試合の中ではうまくいかないこともありますが、次への課題として高い向上心を持って研修することができました。研修会を重ねていくことにより、一層力をつけていけることと思います。

最後になりましたが、お忙しい中大会の準備から運営等ご協力頂きました、(公財)埼玉県サッカー協会・埼玉県女子サッカー連盟の皆様ありがとうございました。無事、研修会ができたことに感謝いたします。

●平成24年度 第2回埼玉県 GK キャンプ 開催

GKプロジェクト 高橋 智 (寄居城北高校)

12月9日(日)、駿河台大学のご協力の下、『平成24年度第2回埼玉県 GK キャンプ』を実施しました。今キャンプの対象選手はU-13・14(中学校1・2年生)。県トレセンおよび4地区トレセンに選出されている選手、東南・西北GKトレセンからの選出選手、中体連新人大会から選出された選手、そしてJ下部組織に所属する選手の計38名を招集しました。また、初めての取り組みとして、県内指導者を対象とするリフレッシュ研修を同時開催し、育成年代におけるGK指導の実践を見学してもらい、今後の指導に生かしていただくような企画を行いました。参加者は40名で、突然の募集にもかかわらず、多くの指導者の方に参加していただくことができました。

午前はナショナルトレセンコーチである柳楽雅幸氏による講

義。U-17国際大会やU-20ワールドカップの映像を交え、選手自身が数年後の自分をイメージしながら取り組む姿勢が大切であると伝えるとともに、この年代で求められている技術・戦術等を



わかりやすく、詳しく伝達していただきました。実技とは違った視点で学ぶことができ、選手にとっても良い刺激であり、参加指導者にとっても有意義な講義でした。ユーロ大会の分析と埼玉県が生んだ日本代表GK川島選手の映像を、選手が食い入るように見入っていたのが印象的でした。

午後のトレーニングは、U-13が『アングルプレー』、U-14が『ブレイクアウェイ』にフォーカスして行われました。トレーニングを通じての課題は、両カテゴリーともに基本技術の徹底がなされていないということです。特にU-13の選手は地区トレセンに選出されている選手であっても、基本姿勢・キャッチング技術が不足しており、まだまだ未熟な選手が多いと感じました。U-14の選手は身体能力が高く、体格的にも見栄えが良い選手が召集されましたが、身長180cmを超える選手はおらず、全体的にはゲームにおけるスタートポジションの低さが目に付きました。また、まじめな選手が多く、個人のトレーニングには真剣に取り組んでいるものの、グループのリーダーとして動いたり、選手をまとめようとする姿勢にも課題を感じました。

コーチングスタッフに関しては、お互いのリレーションシップは非常にスムーズでしたが、事前のシミュレーション不足が露呈し、今後の大きな課題であると感じました。県内トップレベルの選手を招集し、リフレッシュ研修を兼ねて普及活動を行う以上、指導内容の徹底が重要であると感じました。来年度以降は事前シミュレーションにも重点を置き、より良い活動にしていきたいと思います。

最後に、今キャンプに選手、スタッフを派遣してくださったチーム関係者の皆様に、プロジェクトスタッフを代表してお礼申し上げます。

●SMCサテライト講座開催中

2月2日より、今季もSMCサテライト講座が開催されています。今回は14名と少数精鋭ではありますが、熱心に受講中です。3月3日まで週末の出席は大変ですが、多くのことを学び、かつ仲間を作ってもらいたいと思います。



編集後記

●来年度に向けて早くも大会が行われていると思います。直近の大会での成績も大切ですが、サッカーを長く続けていただきたいと思います。サッカーが生活の一部になるよう、無理をしないようにして下さい。(坂庭)

●念願だったペルー旅をしました!『マチュピチュ&ナスカの地上絵』……荘厳さと神秘的な姿に圧倒されました。素敵な旅仲間に出会えたこともあり、とても思い出深い旅になりました。(こいち)

●先日、タイ料理を食べてみたいという友

達を連れて、タイ人のおばちゃん1人でやっているお店へ。苦手な物も知っているのでお任せにしましたが、初めての味は好みに合ったようです。(かのう)

●SMCサテライト講座の集合写真は恒例!?'の「エス、エム、シー!!」の掛け声でニコリして頂きましたが、まさかの手ぶれ……受講生の皆さん、最高の笑顔を見せられずごめんナサイ。(小豆澤)

●後輩がドイツへ旅立ちました! トライアウトを受けてまで海外でプレーしたいという気

持ちはとても勇気があるチャレンジだと思いました! 陰ながら応援してるぞ! (佐々木)

●現実的な話で失礼します。まだ隔月で8ページというペースに慣れません。できたとしたら、もう次のことを考えなければなりませんし、ページ数はかなり制限されているように感じています。しかし、今回のように大会にも触れ、人にも触れるというチャンスで続けてみたいと思っています。次は各種別の新人戦を網羅して、3月末の発行予定です。(荒川)